

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.92

2007/07/31

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会



永小生・先人の知恵を学ぶ・・・

山仕事を体験する子どもたち (07/07/03)



兵庫県立大の講座 (07/07/14)



「自由研究」の受入開始 (07/07/27)

きた。また今年初めての試みとして夏休みの子どもたちの「自由研究」も受入を開始した。これは2004年から整備を進めてきた「やまかど・森の楽舎」付属湿地が本紙裏面ののように、生態系観察には最高の場所となってきたため多様な観察が可能になってきたからである。

有料保全作業の試み

63.4ha「山門水源の森」の保全作業は、机上計画はたやすいものの、実動となると経費・要員・時期等々問題が山積みです。今回初めて参加費をもらって「保全作業」と観察会とを組み合わせる企画を「コープしが」を対象に実施した。里山の生物多様性を保全する活動に参加し、「山門水源の森」の生物多様性を体感してもらい、その重要性を少しでも理解してもらいつつ、尚かつ活動資金を得るという一石三鳥を狙った企画である。「コープしが」の皆さんのご理解を得て大成功裏に終了し、今後の保全活動の一方法として考えていく資料が調いました。企画にご苦労頂いた皆さんお疲れ様でした。



親子で保全作業をする「コープしが」のみなさん (07/07/29)

「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」

<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>

子どもたちの学習に加え、今年は教員の研修や大学の講座や研究者の来訪画増加し「山門水源の森」の活用が多角化して

この孔何なの???



木柵沿いに並ぶ孔・孔・・・(07/07/03)

7月初旬「やまかど・森の楽舎」付属湿地の木柵沿いに左の写真のような孔が何カ所にも見つかった。最初は人為的な孔か、それとも動物の仕業か見当が付かなかったが、そのうち右の写真を撮ったのが記憶から甦った。ひょっとしてイシガメの産卵跡ではと・・・がその日はそれで詮索が止まった。12日保全作業をすべく集まった会員がまたまたこの孔を気にしだした。この機会にと可能性のありそ



地点 付近で産卵するイシガメ

(03/06/26 7:04)

うなものを掘り出してみた。5 cmほど掘り下げると案の定下から卵が出てきたのである。1個は写真のように取り出したが、卵と卵の間には小さいが角礫がぎっしり詰まっており、軟式のテニスボールくらいの堅さであるため破損を案じて4個まで確認したところで掘り下げるのを断念した。付属湿地には大小のイシガメがかなりの数生息しているのは確認されているが、これで確実に現地で繁殖していることが確認できたことになる。2~3ヶ月で孵化するとのことであり孵化直後の子ガメを是非観察したいものです。



掘り出したイシガメの卵(07/07/12)



強雨に耐えるハッチョウトンボ



ハナグモに捕らえられたキイトンボ



獲物を狙うトノサマガエル(07/07/21)

る作業等を間断なく実施しています。その成果の一つか、最近では付属湿地の観察だけで満足してもらえる訪問者も増加してきました。その付属湿地では、これからサギソウやジュンサイが見ごろを迎えようとしています。もちろん各種トンボの羽化・交尾・産卵等も間近で観察できます。夏休みの一日ゆったりとご家族でお出かけ下さい。

8月の保全作業日は、19日(土)です。



コアジサイの挿し芽作業(07/07/21)